

## ◆ソニー：エミー賞の技術部門賞「フィロ・ファーンズワース賞」を受賞

米国のテレビ芸術科学アカデミー（The Academy of Television Arts & Sciences）が主催する2017年度プライムタイム・エミー賞®の技術部門賞「フィロ・ファーンズワース賞」(Philo T. Farnsworth Corporate Achievement Award)を受賞した。アジアのメーカーとして本賞を受賞するのは初めて。フィロ・ファーンズワース賞は、世界初の完全電子式テレビの発明者（1927年米国特許出願）に由来し、2003年の創設以来、長年放送技術の分野で優れた貢献をした企業や組織などに贈呈されるもの。

本賞の受賞は、ソニーが1946年の創業以来、長年、放送業界の発展にさまざまな技術、コンテンツ、サービスを通じて貢献してきたことや、現在、放送業務用機器の主要サプライヤーとして、報道番組から娯楽、スポーツに至るまで、あらゆるテレビ番組制作に高い影響力をもつ点が評価されたもの。

## ◆ソニー：JCT-VC STANDARDS COMMITTEE 2017年エミー賞®を受賞

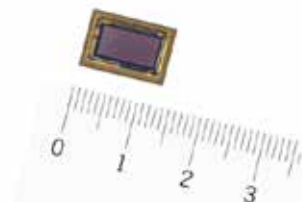
米フラウンフォーファー HHI、ファーウェイ、メディアテック、ノキア、クアルコム、サムソン、ソニーなどが参加している Joint Collaborative Team on Video Coding (JCT-VC) Standard Committee が、High Efficiency Video Coding (HEVC) の標準化活動で、エミー賞「2017 Primetime Emmy Engineering Award」を受賞した。HEVC は Ultra-High-Definition (UHD) コンテンツのネット配信、放送（地上波、衛星、ケーブルなど）などに広く採用されているビデオコーデック技術で、UHD TV やタブレット、スマートフォンなどに幅広く搭載されている。高い圧縮効率と処理量のバランス、High Dynamic Range (HDR) 映像への対応などにより様々な製品、サービスでの採用に繋がった。フラウンフォーファー HHI、ファーウェイ、メディアテック、ノキア、クアルコム、サムソン、ソニーは、JCT-VC に貢献し、ITU、ISO/IEC が今後も産業界に役立つビデオコーデック技術の国際標準化を進め、将来においても成功することを期待する。

JCT-VC は、International Organization for Standardization (ISO) International Electrotechnical Commission (IEC)そして International Telecommunication Union (ITU)のメンバーで構成されたビデオ符号化技術の標準化推進のための団体で、ITU Video Coding Experts Group (VCEG)および ISO/IEC Moving Picture Experts Group (MPEG)により 2010年に設立された。

HEVC 標準化には 200 以上の企業、研究機関が参画しており、その中でフラウンフォーファー HHI、ファーウェイ、メディアテック、ノキア、クアルコム、サムソン、ソニーを含む 14 社は JCT-VC Committee の中核メンバーとして標準化に貢献した。授賞式は米国ハリウッドにて現地時間の 2017 年 10 月 25 日に開催され、JCT-VC を代表してマイクロソフト Gary Sullivan 氏と RWTH アーヘン大学 Jens-Rainer Ohm 氏が、また、ITU-T を代表して Chaesub Lee 氏、ISO/IEC を代表して Karen Higginbottom 氏がそれぞれ受賞した。

## ◆ソニー：業界最高解像度の車載カメラ向け有効 742 万画素積層型 CMOS イメージセンサーを商品化

ソニーは、先進運転支援システム (ADAS)用途の前方センシングカメラ向けに、1/1.7 型で業界最高解像度となる有効 742 万画素 RCCC フィルタ採用の積層型 CMOS イメージセンサー「IMX324」を商品化し、2017 年 11 月からサンプル



出荷を開始する。本イメージセンサーは、従来比約 3 倍の水平解像度を持ち、遠方撮影では約 160m 先にある交通標識の高精細な撮像を実現する。さらに低照度の環境においては、感度をより高めるための画素加算モードの搭載により、高感度 2666mV を実現し、月明かりに相当する暗さの夜間でも歩行者や障害物を撮像することが可能。また、夜間においてヘッドライトや街灯により明暗が混在する場面でも、暗い部分は高感度、明るい部分は高解像度で交互に撮像する機能を持たせ、後段の信号処理との組み合わせによる高精度な認識が可能となる。

加えて、画素部分と信号処理部分を重ね合わせた積層構造を車載カメラ向けイメージセンサーとして業界で初めて採用することにより、高解像度ながらも小型サイズと低消費電力を実現した。

なお、本イメージセンサーは、米 Intel 社の子会社である Mobileye 社（モービルアイ 本社：イスラエル）が先進運転支援システム (ADAS)および自動運転技術に向けて開発中のイメージプロセッサ「EyeQ®4」、「EyeQ®5」と接続可能となる予定。

本イメージセンサーは、自動車向け電子部品の信頼性試験基準「AEC-Q100 Grade2」を 2018 年 6 月までに満たす予定。さらに、自動車向け機能安全規格「ISO26262」に準拠した開発プロセスを導入し、車載向けとしての機能安全要求を満たす設計品質を実現しており、故障検知・通知・制御などの機能安全要求レベル「ASIL B (D)」に対応している。また、車載カメラ向けイメージセンサーとして業界で初めてイメージセンサーから出力される画像の改ざんを防ぐセキュリティー機能を実装している。

## ◆ソニー：CDP 主催の気候変動および水資源の調査において最高評価を獲得

CDP の気候変動、及び水資源管理に関する調査において、温室効果ガス排出削減活動や気候変動緩和、水資源への対応などで特に優れた活動を行っている企業として最高評価である「A リスト」企業に選定された。気候変動では 3 年連続、水資源管理では 2 年連続の獲得となる。ソニーグループは、2050 年までに自社の事業活動および製品のライフサイクルを通して「環境負荷ゼロ」を達成することを長期的ビジョンとして掲げている。この目標達成に向けて、現在は 2016 年度から 2020 年度までの環境中期目標「Green Management (グリーンマネジメント)2020」の施策に着手している。

【問い合わせ先】

ソニー株式会社

Sony.Pressroom@sony.co.jp

\*\*\*\*\*

## ◆パナソニック：米国のデータ解析会社「アリモ社」を買収

パナソニック株式会社は、米国のデータ解析会社である「アリモ社」を資産買収する。Arimo社は、IoT分野における時系列データを中心としたアナリティクスソリューションを展開しており、当社は今回の買収を機に、同社の持つ人的資源を含むリソースやノウハウを最大限に活用し、工場、B2B、住空間領域におけるIoTデータ活用の事業化加速を目指す。パナソニックはこれまで以上に工場における稼働データや住宅およびコールドチェーン・空調などの業務用機器におけるセンサーデータを蓄積・活用するPanasonic Digital Platform（パナソニックデジタルプラットフォーム）の構築を進めている。ここに蓄積されたデータに対してArimo社の有するアナリティクスソリューションを活用することで、AI/IoTを活用したソリューション事業の加速とともに、ビジネスプロセスそのものの改革を積極的に推進していく。

【問い合わせ先】

パナソニック株式会社

press-rd@ml.jp.panasonic.com

\*\*\*\*\*

## ◆アビッドテクノロジー：VR オーディオミックス等の新機能を搭載した最新版のPro Toolsを発表

同社は最新版のPro ToolsをAES New York 2017で発表した。最新版のPro Tools | HD では、Facebook 360 Spatial WorkstationでVRプロジェクトのオーディオ編集/ミックスが可能になる。そして、統合されたDolby Atmos®のワークフローのさらなる効率化によって、イマーシブ・オーディオの革新を後押しする。Pro Tools | First, Pro Tools, Pro Tools | HDそれぞれに数多くの新機能/改良を追加し、ワークフローの効率化およびクリエイティブの革新をサポートする。また、Pro Tools | S6やPro Tools | Dockと組み合わせ使用可能なAvid Artist MixやPro Tools | S3といったEUCONベースのコントロール・サーフェスの利便性を向上させたEUCON 3.7も合わせて登場している。

### ●最新版Pro Tools 12.8.2の新機能

#### ・MIDI機能の強化

新しいMIDI強化機能により、より効率に優れた作曲/アレンジ作業が行えるようになった。グリッド/ナッジ・サイズ及びペンシルツールをキー操作により素早く変更、MIDI演奏入力時のノート並びにコード・ネームの確認、ウインドウ・コンフィギュレーション上でのMIDI編集レーンのストア/リコール、スマートツールを使ったMIDIクリップ編集等が可能となっている。

#### ・新しくなったバッチ・リネーム機能

バッチ・リネーム機能が強化され、ゲーム・サウンド・デザインや複数言語を扱ったMA作業を行う際の大幅な効率アップが実現された。新たにトラック・ネームに対するバッチ・リネーム機能が加わり、トラック/クリップ両方に対するリネーム機能が強化され、検索/置換え/接頭辞/接尾辞/多彩なナンバリング機能を駆使して、効率よくトラック/クリップのネーミングを管理、そのままファイルとして

エクスポートすることが可能。

#### ・VR オーディオ編集&ミックス (Pro Tools | HDのみ)

Pro Tools | HD内で、VRコンテンツに対するオーディオ編集/ミックスが完結可能となった。Pro Tools HD上トラック及びバスが、サード・オーダーまでのAmbisonicsに対応することで、より精緻なVRオーディオの編集/ミックスが簡単に行えるようになり、必要な再生フォーマットへ出力/デリバリーすることが可能となる。また、Facebook社の協力の下、Pro Tools | HD 12.8.2にはFacebook 360 Spatial Workstationも、その機能の一部として標準インストールされるようになっている。

#### ・Dolby Atmos 作業を一層効率化 (Pro Tools | HDのみ)

新たに加わったフロント/リア・ポジション・ノブ・リンクにより、両方のパラメーターを、Pro Toolsやコントロール・サーフェスから1つのパン・コントロールを行なう事で操作可能となった。さらに、既存のパン・オートメーション・データを「高さ」をオートメーションする目的で再利用したり、Pro Toolsセッション内でのDolby Atmos Renderer接続設定も瞬時に実行可能となっている。

#### ・Pro Tools | Firstのセッション読み込み機能 (Pro Tools | First)

Pro Tools | Firstユーザーも、Pro ToolsやPro Tools | HDで作成したセッション・ファイルを読み込めるようになった。シンプルにセッション・ファイルを開き、「コンパート・トゥ・プロジェクト」ダイアログを用いて、クラウド・スペースにプロジェクトとして保存することが可能。

### EUCON対応Pro Tools | S6新機能

#### ・EQ及びDYNサイクリング (切換)

Pro Tools | S6上でのプラグイン切換がより素早く行えるようになった。EQ, DYNにカテゴリーされているプラグインを、S6上のEQまたはDYNボタンをダブル・プレスするだけで、そのチェーン内の次のプラグインを呼び出すことが可能となる。

#### ・Master Meter Module

S6上でのビジュアル・フィードバックが一層充実した。この新機能により、任意のS6ディスプレイ・モジュールを、マスター・メーター・モジュールとして活用することが可能となり、マスター/バス・メーターを常時表示させておくことができるようになる。ディスプレイ上に最大4列までのメーター表示が可能となり、プリセットとして保存しレイアウトとともにリコールすることもできる。

### ●EuControl新機能

#### ・Pro Tools | ControlからのVCAスピル

Artist Mix, Pro Tools | S3, Pro Tools | Dockコントロール・サーフェス使用時の利便性が向上した。Pro Tools | ControlアプリがVCAスピルに対応し、コントロール・サーフェスと組み合わせることで、複数のVCAトラックを使用した際のミックス作業時の視認性/利便性が一層向上した。Pro Tools | Controlアプリ上のVCAボタンをタッピングすることで、サーフェス上にその構成トラックの展開が行なえる。

【問い合わせ先】

アビッドテクノロジー株式会社 マーケティング部

kenta.otsuka@avid.com

\*\*\*\*\*

## ◆ティアック：軽量ながら優れた装着感を実現した開放型ヘッドホン『KPH30i』を新発売

米 KOSS 社の軽量でありながら KOSS の 伝統であるダイナミックなサウンドを実現した開放型ヘッドホン『KPH30i』を 10 月下旬より量販店および専門店等を通じて発売開始する。ヘッドバンドにはシリコン素材を使用することによって心地よい装着感を提供。また、耳の形状に合わせた D 型ハウジングは高い密着性を提供する。マイク付きリモコンケーブルにより、スマートホンのコントロールや音声通話が可能。

- ・開放型オンイヤーヘッドホン
- ・軽量設計で長時間使用でも快適な装着感
- ・長さ調節が可能なスリングヘッドバンドを採用
- ・耳の形状に合わせた D 型ハウジングにより高い密着性を実現
- ・マイク付きリモコンケーブルにより、スマートホンでの音声通話や音量調整が可能



## ◆ティアック：PORTAPRO 用専用ハードケース『KOSS PORTAPRO HARD CASE』を発売

『KOSS PORTAPRO HARD CASE』は KOSS を代表するヘッドホン KOSS PORTAPRO シリーズのためにデザインされた専用ハードケース。耐久性のある作りとデザインは、持ち運びを容易にし、外出先でも KOSS PORTAPRO を保護、また普通の収納にも活用できる。価格はオープンブライズ。



【問い合わせ先】  
ティアック株式会社  
TEL:042-356-9131

\*\*\*\*\*

## ◆ゼンハイザージャパン：2017年冬新プロモーションを開始

ゼンハイザージャパン株式会社は、Bluetooth ヘッドホンの新しいプロモーションを 2017 年 10 月 26 日より開始した。Web を中心に雑誌や店頭で展開していく。新しいプロモーションのコンセプトは「I am Free」。ゼンハイザーがこのコンセプトの Free に込める意図は次の通り。

表現というものは無限にあり、「自由=フリー」には、誰もがその権利はある。しかし、これまで描かれている「自由=フリー」というイメージは、夢があって、アクションを起こせば、手に入れられるのだという、どこか楽観的に見える。しかし、本当は「自由=フリー」を手に入れることは容易ではない。より大きな「自由」を得ようとすれば、さまざまな義務が生じ、困難が立ちちはだかる。「自由」つくるということは、きれいごとではなく、その本質の部分を核とし、行動を続けることなのだ。

こうしたコンセプトをも元に、新しいプロモーションのキャラクターに、ナタリー・エモンズを起用。ナタリー・エモンズはアメリカ出身で、日本では宿泊施設予約サイトの CM で大ブレイク中の女性。大好きな日本で活躍をしたいと単身来日し、努力の積み重ねによって、現在のようなブレイクに至った。

今回のプロモーションの中心となる Web ムービーでは、ナタリー・エモンズがダンスを披露。悩みながらも、一步一步前進していき Free を勝ち取る姿が、ダンスを通じて描かれる。

【キャンペーン URL】

ゼンハイザージャパン株式会社  
[www.sennheiser.co.jp/free](http://www.sennheiser.co.jp/free)

\*\*\*\*\*

## ◆ケンコープロフェッショナルイメージング：

### HORSEMAN 新製品発表

株式会社ケンコープロフェッショナルイメージングは、HORSEMAN の新製品であるアオリ撮影装置「VCC PRO G」をアメリカニューヨークで開催中の「PHOTOPLUS EXPO」において発表した。



VCC PRO G は、現行の VCC PRO の後継機として、ギアによる高い精度のアオリ操作を実現。カメラは交換式のカメラマウントにより各種デジタル一眼レフ、ミラーレス、デジタルバック等が使用可能。レンズは交換式レンズパネルによりローデンシュトックロダゴンのほか、中判カメラ用レンズ、大判カメラ用レンズが使用可能。

各種カメラやデジタルバックとレンズを組み合わせて、精度の高いアオリ撮影が可能なアオリ撮影装置。前枠はスイングとチルト、後枠はライズ/フォールとシフトができ、これらの組み合わせであらゆる撮影に対応する。名称の G はギアの意味。価格は 30 万円台後半を予定で発売は 2017 年 12 月予定している。

## ◆ケンコープロフェッショナルイメージング：

### Aputure 新製品販売開始

Aputure の新製品として LED ライトの「Amaran HR672W」、  
「Amaran HR672C」、AL528/HR672 用アクセサリ「ディフュー  
ザーキット (Easy Frost)」、「ソフトボックスキット (EZ BOX)」、「ソ  
フトボックスグリッド付き (EZ BOX+)」をダイレクトショップ「KPI  
D-Shop」にて発売する。

Amaran HR672W/HR672C LED ライトは iPad サイズのパネ  
ルタイプ LED ライト。照射角は 75°。HR672W は 1m で 2080  
lux の照度をもつデーライトタイプ。HR672C は 1m で 1920 lux で、  
タングステン光からデーライトまで色温度を変えられるバイカラータ  
イプ。付属のワイヤレスリモコンにより最大 100m 離れた場所から  
調光ならびに色温度変化が可能。電源は AC と L 型バッテリーに対応。  
本体で L 型バッテリーへの充電も可能。また「Easy Frost」、「Easy  
BOX」、「Easy BOX+」と組み合わせることで、多彩なライティング  
効果を得ることができる。

「ディフューザーキット(Easy Frost)」、「ソフトボックスキット(EZ  
BOX)」、「ソフトボックスキットグリッド付き (EZ BOX +)」は  
Amaran AL-528W/C、HR672W/C に装着して光をソフトにする  
アクセサリ。「ディフューザーキット (Easy Frost)」はフロン  
トディフューザー、「ソフトボックスキット (EZ BOX)」は周囲を囲  
うインテリアパネルを付属、「ソフトボックスキットグリッド付き (EZ  
BOX +)」はさらにグリッドを付属しており、柔らかい光から直進性  
のある光まで、自由に作り出すことができる。

### 【問い合わせ先】

株式会社ケンコープロフェッショナルイメージング

TEL:03-6840-3622

\*\*\*\*\*

## ◆ビジュアル・グラフィックス：QC 自動化ツール

### 「QUALES QC」の販売を開始

放送事業者、制作会社、ポストプロダクションなどの、放送コンテ  
ンツに携わる事業者向けに、映像・音声コンテンツの品質チェック  
を自動化する QUALES QC ソフトウェアの販売とサポートを開始し  
た。

QUALES QC は、メディアファイルの整合性をチェックするため  
の包括的な機能を搭載したビデオとオーディオの品質チェックシ  
ステムとして、搬入ファイルあるいは納品前のメディアファイルを分析  
し、オーディオ信号とビデオ信号の両方について一連の検証テスト  
を自動的に実行し、求める仕様を満たしているかどうかを確認する。  
VGI は今後 QUALES QC を、プロフェッショナルな映像制作・編集・  
納品というフローがファイルベース化する中で、非常に重要な役割  
を果たすソフトウェア・ソリューションと位置付けて販売、展開をし  
ていく。

QUALES は 2017 年 4 月の EditShare 社による買収によって同  
社の製品ラインナップに加わった。VGI は、日本での EditShare 社  
の輸入販売元として、コラボレーション映像制作に最適なスケールア

ウト・プロダクションサーバー EditShare XStream EFS に加え、  
今後 QUALES QC ソフトウェアのコンサルティング、販売、サポー  
トを提供していく。

### 【問い合わせ先】

ビジュアル・グラフィックス株式会社

TEL:03-6277-1891

\*\*\*\*\*

## ◆ブラックマジックデザイン：ワンリパブリックの Honda Civic ツアー、Blackmagic Design のライブソリューションを使用

ATEM 2 M/E Broadcast Studio 4K、Teranex Express、  
HyperDeck Studio Mini を使用したライブプロダクション用ソ  
リューションが、2017 年のワン リパブリックの Honda Civic ツ  
アーにおけるビデオ制作および IMAG に使用されたと発表した。

Vis-a-Vis Media のライブ監督 / オーナーのスチュアート・マー  
サー (Stuart Merser) 氏がビデオシステムの構成および仕様を  
決定し、OCD Labs のジェフ・ノルティ (Jeff Nolte) 氏と共に、  
Blackmagic Design のスイッチング、ルーティング、モニタリング  
ハードウェアを中心に独自のライブビデオ用システムを構築した。こ  
れにより、バンドのツアー、フェスティバルでの演奏、企業のイベ  
ントなどにおけるパフォーマンスのライブビデオに独自の加工を行  
なった。

「システムはパワフルな機能を搭載していると同時に、ポータブル  
である必要があります。出来上がったシステムは、モジュラー式で  
ショーの制作に必要な機能がすべて搭載されています。しかし、それ  
と同時に追加のハードウェアへの接続も簡単で、会場の既存インフ  
ラへの適応性にも優れています。つまり、会場やフェスティバル開  
催地へ飛行機で到着したら、BNC を介してカメラをシステムに接続  
するだけでショーのコントロールの準備が瞬時に完了します」とマー  
サー氏は語る。

このシステムは、バンドの米国およびアジアツアーの全ライブビ  
デオに使用され、システムの中核である ATEM 2 M/E Broadcast  
Studio 4K からメインアクトのコンテンツが同氏によりミックスさ  
れている。ジェームズ・アーサー (James Arthur) やフィッツ & ザ  
・タントラムズのサポートアクトのコンテンツは、サブスイッチャーの  
ATEM 2 M/E Production Studio 4K で制作される。

86 倍レンズを取り付けたカメラが舞台正面、動きをキャプチャー  
するために 2 台の 14 倍 4.3mm 広角レンズをマウントしたカメラ  
を舞台真下、ドラム、チェロ、ピアノ、シンセのクローズアップ専用  
に 4 台の小型カメラが舞台上に配置されている。7 つのチャンネル  
はすべてスイッチャー、複数のメディアサーバー、ライブビデオ加  
工エンジン VideoDust にルーティングされ、ライブ入力から鮮やか  
なグラフィックを作成している。

「VideoDust は Blackmagic のキャプチャー・再生カードに作成  
しています。側面からのバンドの映像は、VideoDust を使ってライ  
ブで作成するので、ビデオシステムの各要素の信頼性が高く、レイテ  
ンシーが最小限であることが必要不可欠です」と同氏。

三角形の LED スクリーン、舞台裏のモニター、舞台正面への信号は Smart Videohub 40x40 から送信された。ビデオラックの Teranex Express コンバーターは、このシステムにおいて欠かせない存在であることを示した。「会場の多くが、離れた席にいる観客がステージを見るためのスクリーンが設置された野外の大型スタジアムです。このようなスクリーンの多くが、古いフォーマットのみを受け入れるタイプなので、システムの Teranex を使って、会場やディスプレイに使用されている技術に関係なく適切なフォーマットでフィードを送信できます。」

同氏が担当した制作は、すべて HyperDeck Studio Mini を使用して SD カードに収録されている。「ショーが終了すると同時に停止ボタンを押して、SD カードを撮影監督のプロディ・ハーパー (Brody Harper) に渡します。それをプロディが編集して 20 分後に SNS にアップします。バンドやアーティストから、このような繋がりをファンは求めているので、ライブの体験を SNS で共有することは、今日どんなバンドにおいても欠かせない要素になっています」と同氏は締めくくった。

## ◆ブラックマジックデザイン：2017 年夏に世界各地で開催されたコンサートや音楽フェスティバルで活躍

今年開催された大規模な音楽フェスティバルやコンサートツアーのキャプチャー、スイッチング、モニタリングに、同社のインフラ製品が多数の機材レンタル / ステージ演出会社により使用されたと発表した。これには、ワンリパブリック、ジミー・バフェット、トレイン、エルトン・ジョンなどのアーティストに加え、La Route du Rock、BigCityBeats、Reggae Fest などのフェスティバルが含まれる。

放送技術とオーディオビジュアル技術の共通性が一層増していく中、PRG XL Video、LANG AG、Fix8 Group、So Midwest、Subtractive Inc. など、ますます多くの機材レンタル / ステージ演出会社が Blackmagic Design の製品を中心としたビデオ制作をアーティストやツアーバンドに提供し始めている。

Creative Technology のシド・ロブ (Sid Lobb) 氏も、それに同意する一人だ。「ライブコンサートやパフォーマンスには、低遅延で、効率性が高く、複数のフォーマットに対応している機器が要求されますが、それを実現する Blackmagic Design 製品は弊社のような会社にとって瞬間に欠かせない存在となっています。同社の製品は、イベントのセットアップ、モニタリング、配信、IMAG 用映像ミキシングだけでなく、収録やパフォーマンスのライブストリーミングまで、制作チェーンの全ての側面に使用されています。」と同氏は語る。

Blackmagic Design の製品を使用したオーディオビジュアルソリューションを導入した 2017 年のコンサートや音楽フェスティバルの一例：ボブ・シーガー & ザ・シルバー・ブレット・バンド：「Runaway Train」ツアー エルトン・ジョン：2017 年ワールドワイドツアー フォール・アウト・ボーイ：「The Mania Tour」ジミー・バフェット & コーラル・リーファー・バンド：「I Don't Know」ツアー ワンリパブリック：「Honda Civic」世界ツアー リッチー・ハウティン：「CLOSE」ツアー

## ◆ブラックマジックデザイン：ライゾマティクスリサーチ、ダンスインスタレーション「phosphere」に URSA Mini 4K および UltraStudio 4K を使用

ライゾマティクスリサーチが、東京ドームシティに誕生した多様なアート・カルチャーを発信していく「Gallery AaMo」のオープニングを飾ったダンスインスタレーション「phosphere」に Blackmagic URSA Mini 4K および UltraStudio 4K を使用したことを発表した。

ライゾマティクスリサーチは株式会社ライゾマティクスの一部門として、メディアアート、データアートといった研究開発要素の強いプロジェクトを中心に扱い、テクノロジーを駆使した作品を数多く発表している。近年では、リオデジャネイロオリンピック大会閉会式での 2020 年フラッグハンドオーバーセレモニーの演出を手掛けたことでも有名だ。

様々なクリエイターとのコラボレーションを実践しているライゾマティクスリサーチは今回、ダンサー・振り付け師として活躍する MIKIKO の率いるダンスカンパニー ELEVENPLAY と、アートとエンターティメントを融合させたギャラリー「Gallery AaMo」のオープニングダンス・インスタレーション「phosphere」をコラボレーションワークした。「phosphere」は多数のプロジェクターの光を複雑な空間として構築し、ダンサーやオブジェクトがその中に入っていく、ダンス・インスタレーションという新しいジャンルの作品だ。

この「phosphere」では、各ダンサーの手首についたマーカーにより彼らの動きがトラッキングできる。トラスと床に設置された計 24 台のプロジェクターから投影された光がダンサーのマーカーに当たり、光の空間を作り出すことができるのだ。その際に画像解析用途として使われたのが、2 台の URSA Mini 4K および UltraStudio 4K だ。

「もともと別の案件で、URSA Mini 4K を導入していたこともあり今回のプロジェクトでも利用できないかと思いついてみました。こういった画像解析用途では産業用のカメラを使うこともありますが、周辺機器の PC スペックなどが高いものを要求されることが多く、カメラ自体は高価ではなくても結果的にコストがかかってしまうことがあります。その点、URSA Mini 4K は、通常の撮影用にも使え、周辺機器も高スペックなものがないため、汎用性が高いんです。また、画像解析の機材は多ければ多いほど精度が上がるため、コストをあまりかけずに 2 台導入できる点も良かったです。」と話すのはシステム開発を担当した同社の花井裕也氏。

プロジェクターから投影した解析用のグレイコードパターンを、2 台の URSA Mini 4K で撮影し、UltraStudio 4K でキャプチャー。その画像を解析してプロジェクターの正確な位置を読み取る。画像解析のために、花井氏は UltraStudio 4K の SDK を使って独自のソフトウェア開発を行ったという。こうすることで複雑な光の演出が実現した。

「プロジェクターの位置を読み取ることをキャリブレーションと呼んでいますが、一旦キャリブレーションが取れてしまえばカメラを動かす必要もなく、とても楽でした。また、UltraStudio 4K は SDK が自由に使える、使いやすい点もメリットでした。SDK を使って URSA Mini 4K で低感度で撮影した画像を重ねて明るくすると

いったことにも利用しました。これによって高感度で撮影するよりも綺麗な画像が得られました」と花井氏は結んだ。

【問い合わせ先】

ブラックマジックデザイン

<https://www.blackmagicdesign.com/jp>

\*\*\*\*\*

## ◆CES：インテル CEO、ブライアン・クルザニッチ氏 CES 2018 に基調講演者として登場

Consumer Technology Association (CTA[TM]：全米民生技術協会)は、CES2018 で業界をリードする企業トップにより一連の基調講演の第一弾として、インテル CEO のブライアン・クルザニッチ氏 (Brian Krzanich) が登場する。クルザニッチ氏の講演は CES の新しい会場、モンテカルロのパークシアターで、1月8日(月)午後6時30分より開幕前基調講演として行う。世界中の民生機器テクノロジー産業界の関係者が一堂に会する世界最大規模のイベント、CES 2018 は 2018 年 1 月 9 日 (火) から 12 日 (金) までネバダ州ラスベガスで開催される。

クルザニッチ氏は 2016 年に基調講演を行い、テクノロジーの限界を超えて世界を再構築する方法を概説しました。2017 年には、CES で初の試みとなったバーチャルリアリティ (VR) のデモが披露された記者会見を開催した。今回、同氏は基調講演に再び登場し、AI (人工知能) 革命にどう向き合うかを探り、データの威力を解き放つ際に可能となる驚きの新体験を紹介する。

CTA の会長兼 CEO であるゲイリー・シャピロ (Gary Shapiro) は、次のように述べている。

「CES の基調講演にブライアン・クルザニッチ氏を迎えられることを嬉しく思います。同氏は非常に先見の明があるだけでなく、ビジョンを現実の上で行動に移しています。インテルのデータへの先進的な取り組みは、未来のイノベーションを形作っています。同氏の CES での 4 回目の基調講演では、データが日常生活を変える驚きの新体験を創出するために、インテルが次のステップをどのように進めているのかを紹介します」

クルザニッチ氏は、製造における一連の技術職や幹部職、同社の最高執行責任者 (COO) を経て、2013 年 5 月に CEO に就任した。クルザニッチ氏は CEO として、インテルを PC 中心の企業からデータ中心型の企業に変えた。クルザニッチ氏の下、インテルはメモリー、モデム、プログラマブルソリューションなどの市場で拡大し、AI、5G、自動運転などの新興分野に投資しています。こうした取り組みによってインテルは、成長と発明の最大の機会とみなし、データの爆発的増加が原動力となっている。

【問い合わせ先】

株式会社井之上パブリックリレーションズ

TEL:03-5269-2301

\*\*\*\*\*

## ◆グラスバレー：ノンリニアビデオ編集ソフトウェア

「EDIUS 9」を発売

ノンリニアビデオ編集ソフトウェア EDIUS の最新バージョン「EDIUS 9」を発売する。EDIUS は、4K や HDR を含む、多彩なファイルフォーマットと解像度のリアルタイム編集をサポートしたプロフェッショナル向け映像編集ソフトウェアで、世界各国で使用されている。

EDIUS Pro 9 は 2017 年 11 月上旬、EDIUS Workgroup 9 を搭載したターンキー製品は 2018 年 4 月以降に出荷を開始する予定。クラウドに対応した業務用のフローティングライセンスパッケージは、放送局や学校などの大規模な施設向けに設計されており、必要となる端末すべてに EDIUS をインストールし、その中でライセンス台数分の EDIUS を同時に使用することが可能。また、フローティングライセンスにより、クラウドプラットフォームのマシン上で EDIUS 9 を使った編集が可能となる。ライセンスは管理ソフトウェアによって集中管理し、必要に応じて追加することができる。

### ● EDIUS 9 新機能

- ・ 4K を含むさまざまな HDR、Log 素材のリアルタイムネイティブ編集
- ・ プロジェクト単位のカラースペース設定による SDR/HDR の混在編集
- ・ 放送局、および Web 用の HDR メタ付加ファイルエクスポート
- ・ 各社カメラメーカーに加え、ドローンやスマートフォン素材のネイティブ編集
- ・ Canon EOS C200 “Cinema RAW Light” と静止画 RAW ファイルのデコード
- ・ カスタマーからのフィードバックをもとに改良されたユーザーインターフェイス
- ・ Mync (メディア管理ソフトウェア) に強力なメタスマートサーチ機能を追加

「多くのユーザーが長年 EDIUS を利用しており、より良いソフトウェアにするためのフィードバックを常に提供してくれています。ライセンス構造の簡素化、フォーマットサポートの強化、ダウンロード・インストールの高速化など、EDIUS はエディターにとって必要不可欠なソフトウェアとなりました。私たちは、EDIUS がさまざまなコンテンツ制作に使用されているのを嬉しく思います。」(グラスバレー株式会社 Editing Systems バイスプレジデント & ジェネラルマネージャー 竹内克志談)

フローティングライセンスパッケージの開始は 2018 年 4 月に予定されている。2017 年 9 月 1 日以降に EDIUS Pro 8 を購入し、所定の申し込み手続きをしたユーザーには、EDIUS Pro 9 へ無償にてアップグレードが可能。

【問い合わせ先】

グラスバレー株式会社

[www.grassvalley.jp](http://www.grassvalley.jp)

\*\*\*\*\*